

社会参加するために責任を持ってテクノロジーを使う

コンピュータ1人1台環境が整備され子どもを取り巻くICT環境が大きく変化した今、デジタル・シティズンシップ教育が注目されています。デジタル・シティズンシップは、欧米で広く学ばれているメディア教育であり市民教育、人権教育です。

個人の安全な利用のためだけに学ぶのではなく、人権と民主主義のための情報社会を構築する善き市民となるために学ぶことです。本講演では、学び、創造し、社会参加するために責任を持ってテクノロジーを活用できる「善き市民」を育成するために、学校教育でどのような学びを提案していくのかを語っていただきました。



一般社団法人メディア教育研究室代表理事
国際大学GLOCOM客員研究員
いまだ たまみ

講師：今度珠美 氏

行動するための手順と方法を学ぶ

デジタル・シティズンシップ教育とは、「ネット上に残り続ける可能性のある個人情報や管理する情報の未来に渡る影響を意識して行動する」「ネットを介したコミュニケーションでは、ネットという公共の倫理、作法を意識して行動する」「創造者としての責任を理解し、行動できる」といった行動するための手順と方法を学ぶ教育です。（行動規範）

ネットの発信と責任のリング

自分の行動は、誰に対する責任や影響につながるのかを考えることが大切です。

中心にあるのが「私のリング」その周囲に「まわりの人々（家族やクラスの友だち）のリング」、そして「見知らぬ人々や世界のリング」です。自分の行いが誰に対する責任か、どこまで広がっていくのかを考える時にこのリングを意識することが重要です。



「立ち止まる」ための手順と方法を学ぶ

オンラインで行動する時、スピーディに物事が動いていってしまいます。だからこそ、「行動する前にいったん立ち止まる」「今、何をすべきか考える」「信頼できる人に相談する」という3つのステップを踏むことが大切になります。その時に子どもたちの抱えているジレンマにどう向き合っていくかということは大変重要です。

保護者への行動規範を示すこと

家庭の中でネット機器を使わない時間と場所を作りましょう。子どもの年齢に合った機器の機能制限を設定しましょう。家族の約束を明確にし大人がモデルとなるようにします。子どもの年齢に合ったメディアであるかを大人が確かめておきましょう。そして、様々な健康的な体験の機会（身体的、感覚的、文化的）を作りましょう。

ICT Conference in INAでの 今度珠美 氏の講演をもとに推進センターで編集させていただきました。

今度珠美 氏の講演で扱った「45億人の目と足あと」の演習用スライドと小学校向けのスライドを、ご好意により共有します。

ICT活用教育DB内 > 04小中共通各種教育 > 0403デジタルシティズンシップ教育 にパワーポイントのファイル形式で共有。

※教材スライドは演習を受けられた方のみ配布ができます。演習を未受講の方にはお渡しできませんのでご了承ください。

制限するのではなく使いこなせるように扱っていききたい

- ・実際に子どもたちが写真などから考え合うことで、ただ単に禁止するよりも実感を持って学べると実感できました。（伊那市内参加者）
- ・デジタル足あとを考えるワークで、自分たちで考えてみたり、他の先生方の意見をお聞きしたりすることで、より投稿する人の気持ちになって考えることができました。制限するのではなく使いこなせるように、授業などでデジタル・シティズンシップを扱っていきたいと思いました。（伊那市内参加者）
- ・デジタルシティズンシップ、初めて聞いた言葉だったが、日常的なICTの利活用、公共の作法など、普段、日頃学校現場でも意識していることが根底にあるということを知った。心情規範と行動規範の違い。公共私、誰に対する責任感か。インターネットは、公共空間、とても考えさせられる言葉だった。（伊那市内参加者）
- ・とても聴きやすく内容も充実していたと思います。（伊那市外の参加者）
- ・責任のリングを用いて考えると情報モラルが向上すると思います。（伊那市外の参加者）
- ・情報モラル教育は行っておりましたが、このような視点での授業展開は本当に全く新しい視点を与えてくれました。他の団体のテキストなども見たことはあるのですがまた、長野県でも情報モラルを推進するテキストなども作成しましたが、今日の講演をお聞きして、やっと理解ができました。紹介していただいたテキストを早速注文して勉強させていただきます。本日は本当にありがとうございました。（伊那市外の参加者）
- ・日本では、なかなか系統立てて論理的に実践されていないデジタル・シティズンシップ教育について、わかりやすく教えていただくことができました。ありがとうございました。（伊那市外の参加者）

今度氏の講演に関する感想の一部を紹介しました。



ICT Conference in INA は伊那市全教職員の研修としてハイブリッドで開催しました。

